

■中学校1年生の部 最優秀賞

僕の初恋を君に捧ぐ

川湯中学校 海老名 美生さん



人がいなくなるのは、今まで当たり前だった日常がとっぜんなくなるという事です。

この本に出てくる繭まゆという少女は心臓病を患う運まわという少年に恋をします。しかし、運に心臓を提供してくれる人はいなく、そのまま死んでしまう、という事です。

私はあまり覚えていませんが、小さいころに一度お葬式に行った事があります。そのころは何が起きているのか全くわかりませんでした。でもただ一つわかった事がありました。

死んだ人の遺体が入った箱が運ばれていく時、その近くにいた人はハンカチで涙をふくほど泣いていました。顔や目はすごく真っ赤でした。私はこの時箱がどこに運ばれるのかな、と想像していたけれど、本当はすごく悲しいんだという事がわかりました。

去年のニュースなどでは、マイケルジャクソンが死んだという大ニュースがありました。

もし私の家族や好きなアイドルが死んでしまったらどうするでしょうか。母に前聞いたのですが、好きなアイドルが死んだらファン達は、うつ病という病気が

になり自殺をする、と言っていました。私も実際好きなアイドルがいますが、死んでしまったらどうするでしょうか。きっと泣きたくなると思います。会って話した事もなく、いつかはあきらめられるかもしれないけれど、すごく悲しいと思います。自殺まではいかないけれど、きつとすこゝ落ちこんだり、胸がいつぱいになってしまいます。

けれども、実際このよつな事を繭は体験したことがあります。七歳のころに自分の母親を亡くしたのと、高校の同級生の鈴谷すずたにという人も亡くなりました。けれど繭はお母さんをなくしてもすこゝ立ち直りました。それは運と出会ったからです。けれども私の場合はそんなにすこゝ立ち直ることはできません。なぜなら、友達や家族の場合でも今まで当たり前だったことができなくなってしまうからです。友達とは学校で話せなくなったり、一緒に遊んだり、勉強をしたりするのができなくなってしまうんです。私はこんな事が起きたらさびしくてたえられません。私には仲の良い友達がたくさんいます。でもその中の大親友が死んでしまったら私はもうどん底に落とされたような気分になってしまいます。いつも近くにいるのにとつ然りなくなってしまうたら一人とり残されたように感じてしまいます。家族も同じです。一緒に生活したりご飯を食べたりそれがもう当たり前になってきていると思います。けれども、その中の一人がいなくなったら、どう生きてゆけばいいかわからなくなっ

てしまいます。例えば姉妹なら、いつもはきらいたと思っただけでも、いざとなったらやっぱり死んでほしくないと思います。話したり遊んだり、ケンカをするのができなくなってしまいます。思いきりケンカした時は「もういいなくなってしまえ」と思ったりするのですが、私がおこられたりした時は私の事をなぐさめてくれたりしました。父や母は、家事をしてくれたり、家のために働いてくれたり色々な場所へつれていってくれたりします。

でも、もしいなくなったら私はどうなるのでしょうか。父か母どちらかがいなくなっても家事をしなければいけません。でも私はすこゝめんどうくさがりです。何かを出す時や電気を消すだけでめんどうくさいと思っただけで、「それくらいきちんとやりなさい」とおこられたりします。私はめんどうくさいと思いがちです。私自身もすこゝめんどうくさいと思っただけで、「それくらいきちんとやりなさい」とおこられたりします。私はめんどうくさいと思いがちです。私自身もすこゝめんどうくさいと思っただけで、「それくらいきちんとやりなさい」とおこられたりします。

この本を読んだ感想は、運は病気とたたかいたがらも繭と人の何倍も幸せに生きたところに感動しました。この二人は時間がないので一日一日を大切にしながら生きていました。

■中学校2年生の部 最優秀賞

大きな自分を目標にして

川湯中学校 池上 温人君



「挑戦することとその他の勇気」これはとても重要だと思ふ。なぜなら、人は挑戦し新しいものを得て、成長していく生き物だからだ。僕は沢山のことに挑戦し大きくなる、そんな生き方をしたい。

僕が読んだ本は「ティーン・パワーをよろしく」という本で、中学生の主人公達が小遣い稼ぎのためにアルバイトをする話だ。僕は彼らがお金のためとはいえ色々な仕事を引き受け挑戦していく姿にひかれとんどん読み進めた。

もし、自分の欲しい物を買うためのお金が足りない時、アルバイトをしてみようか。今の僕は思えるか。多分できないだろう。「中学生だから」は抜きにしても「大変そう。恥ずかしい」などと言っただけならいいだろう。自分の中の言い訳や後ろ向きな気持ち、これを抑えてでも取りくめる勇氣ある姿、これを本を読んで強く感じた。だからこんな姿を目指したいと思っ

た。例えば、何にでも積極的に挑戦する人がいるとする。この人は大変だろう。知らない事やったことのない事、初めて会う人、一人大変な思いをするだろう。

こつこつ事ばかりを考えてやることを躊躇ためらったり、諦めたりする人もいる。自分もその中の一人だ。だけどそこを乗り越えれば大変だった分、得るものがあると思う。人より広い知識、人より豊富な経験、人より多い知り合い、この他にも山ほどあるだろう。

僕は今まで、「やったことがない」などの理由をつけてやらなかった事が沢山ある。その中には今から始めて間に合うものと、手遅れのもの一生できないものがあるだろう。だからこそその場の挑戦する勇氣が必要なのだ。もし今からでも間に合うものがあれば挑戦してみたい。そう強く思う。

「もし失敗したら」これも挑戦しようとする自分を止める大きな壁だ。僕は失敗が恐くてやめたことが何度もある。僕だけじゃなく多くの人が抱く気持ちではないだろうか。でも失敗を恐れていたって成長できない。「失敗したっていい。初めてだから当たり前。失敗も一つの経験。」このような前向きな考えが一番良い。登場人物達も前向きだ。挑戦する姿の理想は前向きな姿だ！ありきたりの事かもしれないが、やはり僕はこれが一番だと思っ

私は学校からつかれて帰ってきて、勉強したりしてねる、という忙しい日常を送っていました。

けれども、やる事は先にやって運と繭のように、家族みんなで一日一日を大切にし、幸せに生きていきたいと思ひます。

【寸評】「人との別れを自分の実体験を交えて書くことができます。出会いがあれば、必ず別れが訪れます。その別れに向かって一日一日を大切に過ごしていこうという前向きな心に好感を持ちました。家族や仲間とともに生きられる幸せ、当たり前のことですが、絶対に忘れてはいけませんね。

挑戦は避けてほしいし、避けたい。

この場合には「挑戦しない勇気」と落ち着いて考える事が重要だと思う。僕は今まで挑戦してそのような危険を味わった事はない。これからもそのつもりでよく見極めて挑戦したい。

今まで「初めての事への挑戦」について考えたが、今既になっている事の「更なる上への挑戦」もあるだろう。例えば僕が今やっているバドミントン。今は釧路でそこそこのレベルだがその上に全道・全国・世界とある。そこを目指し今までより頑張る。トレーニングを増やしたり、見て学ぶ、意識を高く持つこれも挑戦だ。僕はこの挑戦をもう始めているつもりだ。挑戦を続け、更に上のレベルへ成長したい。

今回、「ティーン・パワーをよろしく」を読んで「挑戦」について考えた。結果、挑戦することの重要性と良さ、自分がどう気をつけて生きていけばいいかわかった。だからこれからは、以前挑戦し忘れたものや、新たなスポーツ、楽器、言語、仕事への挑戦と更なる挑戦をしていきたい。そして主人公達のような前向きに生きられる大きな人になりたい。

【寸評】「挑戦の前に立ちはだかる壁や「更なる高みへの挑戦」など、自分の掲げたテーマをさまざまな角度からとらえ、自分の体験と重ね合わせて書くことができています。また、力強い文体から、これからの人生、たくさん挑戦をして、大きく成長していくんだという決意を感じました。大きな自分を目指してこれからも日々精進していきましょう。

第36回児童生徒読書感想文コンクール

児童生徒読書感想文コンクールに、多くの優秀な作品が寄せられました。

先月に引き続き、最優秀作品を紹介します。

※生徒の学年は、コンクールが行われた平成22年度当時のものです。